

この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

試読・購読はこちらから



11月23日号（289号）

編集／販売総本部ブランドプロモーショングループ

ジェンダー平等 田中東子東京大教授に聞く

23日(日)=1、3面



田中東子（とうこ）さんⅡ写真Ⅱの専門は政治やメディアにおけるジェンダー平等についてで、TBS番組審査員を務めるなどして数多く発信をしています。

先月発足した高市早苗内閣。女性初の首相と注目され高い支持率を維持していますが、内閣の構成をみれば女性の数はわずかです。これは自民党だけの問題ではありません。野党を見渡しても、幹部に女性が少ないのが実情です。

田中さんは「そもそも女性政治家の数が少ないのが背景にあります」と指摘します。最近、地方自治体で女性の首長が問題を起こすケースが相次ぎメディアの報道が多くありましたが、これも「女性の首長の数が少ないから目立ってしまう」と言います。

女性の活躍が叫ばれて久しいですが、男性によるミソジニー（女性処罰感情）やハラメントが大きな壁となつて、女性の進出が拒まれてきた側面は否定できません。話題はフジテレビ問題にも及び、田中さんは「年齢や経歴など同質性が非常に高い男性ばかりが経営陣の多くを占めたことで、女性の人権侵害という重大事案に対応できなかった」と訴えています。

そこが聞きたい

参政党躍進の背景

23日(日)=くらしナビ面



先の参院選では、参政党が得票を伸ばしました。どんな背景があり、先行きはどうかののでしょうか。

「ポピュリズムとは何か」（中公新書）の著書がある千葉大学大学院社会科学研究院教授の水島治郎さんⅡ写真Ⅱに聞きました。



論点

どうなる？「コメ政策再転換」

26日(水)Ⅱ総合面

コメの増産にカジを切り、事実上の「減反」政策に区切りをつけた石破茂政権から一転し、高市早苗政権は政策を元に戻すようです。鈴木憲和農相Ⅱ写真Ⅱは先月、「需要に応じた生産が原理原則」と述べ、事実上の減反再開方針を示しました。

日本のコメ農業はどうなるのでしょうか。米価は高騰が続くのでしょうか。農政に詳しい自民党国会議員と専門家に聞きました。

特集ワイド「パンダ文献学」で探る魅力

25日(火)=タ刊2面



白黒ふわふわの毛、ユーモラスな動きが世界で愛されているパンダⅡ写真Ⅱ。しかし昔習った漢文にも、古い美術作品にも、パンダは出てきません。パンダの可愛さを「発見」したのは誰なのでしょう。そしていつから、パンダは愛らしさの象徴になったのでしょうか。

そんな謎に、古典の研究から迫る学者たちがいます。「パンダ文献学」から見えてきた、新たな一面を紹介します。